

## 一般質問

岡野孝則

(民主クラブ)

### 行政改革の現状は

**問** 第5次総合計画が始まり、本年度で早や2年を終えようとしている。事務事業の見直しと検証はどのようにされているのか。

**答** 過去は事務事業評価をチェックシートで行っていた。現在は、総合計画において施策の基本的方向性が示され、総合計画でのローリング、財政需要額調査等を実施検証し見直している。

**問** 職員の年代別構成比率が20代では9%しかない。将来に向け行政推進に影響が出ると思うが今後の対応策は。

**答** 平成21年度が5.4%で好転はしている。計画的に職員採用は行っている。組織の肥大化を避け適正な人事管理に努める。

**問** 行革として今後何を重点施策とするのか。

**答** 適正な定員管理の継続、人材育成、施設の効果的な運営、持続のある健全財政運営を継続し市民サービス等に重点を置く。



携帯ゲーム注意喚起は家庭で

### 青少年の健全育成は

**問** 携帯電話・ネットトラブルの実態調査の結果は。

**答** 小・中学生1150人を対象として回収率94.5%。調査内容は、携帯電話にフィリタリングをしている数は、小学生36%、中学生35%。家庭での約束等ルール作りは小学生60%、中学生63%。ソーシャルゲームの利用は32%。内10人が通信料以外の利用で料金を払った。1ヶ月の最高額は8千円程度だった。

**問** 携帯電話などでのゲーム利用は、家庭で十分協議が必要と思うがその見解は。

**答** 協議が前提。今後も家庭教育講演会を開催し防止を進める。

### 経済建設委員会

第3回定例会において調査の許可を得た「中心市街地の活性化について」本委員会は、旧基本計画で行われてきた駅前地区土地区画整備事業並びに市街地再開発事業の取り組み、現基本計画に掲げられている各種事業の進捗状況並びに達成しなければならぬ数値目標の見直しについて、担当部局より説明を受け、事業効果や課題について検証を行ってきています。

駅前地区の再開発事業では、「中心街活性化センター」「ふらつと」が、計画を上回る9万人以上の年間利用者があり市民の健康づくりに寄与している。しかし、一方では、商業者の高齢化や後継者不足に伴い小売店数の減少に歯止めがかからず、まちなか居住人口の増加対策として成果を残せなかった経緯にあります。

### 委員会の動き

富良野協会病院移転を契機に開発が行われたフラノ・マルシェ事業は、オープン以来180万人を超える

来場者を駅前地区や中心市街地全体へ誘導し、いかに経済波及効果を生めるかが、今後の再開発事業のカギと考えます。

9月に施行認可された「富良野市東4条街区地区第1種市街地再開発事業」は施行者が民間業者であることから、委員会では行政がいままで以上に市民へタイムリーな情報公開を心がけ、事業の透明性を図るとともに、積極的に市民が参加できる機会を設けるなど、市民の理解が得られる事業推進を行うよう言及してきています。

今後は「ルーバンフラノの定義」についても再確認し、富良野のまちづくり構想を深め、将来を見据えた中心市街地全般に関する施策について議論の掘り下げを行います。



東4条街区地区再開発事業の計画説明